



Rotary Serving Humanity
2016~2017年度RIテーマ

例会場；ホテル プエナビスタ／例会時間；第1・2水曜日 19:00~20:00, 第3・4・5水曜日 12:30~13:30

「お城を見つめ直す」
移動例会（於；池上百竹亭）



開 会 12:30

司 会 S.A.A・プログラム 宮澤クラブ管理委員長
ゲスト紹介 西牧会長

講師；碓屋 公章 様



会長あいさつ

西牧会長

今日は池上百竹亭での例会です。呉服商で松本が生んだ文人 池上喜作(1890-1978)の邸宅です。平成7年にご遺族から松本市に寄贈され、地域文化の振興を図る社会教育施設「池上百竹亭」として生まれ変わりました。裏千家流の茶室と和室です。庭園は自由に見ることができます。竹林を配した閑静な庭園の一角には明治・大正・昭和にかけて活躍した俳人、『荻原井泉水』の句碑があります。中の和室や茶室は生け花やお茶の稽古などに市民に利用されています。「百竹亭」とは、池上喜作の雅号です。松本美術館に常設されている池上百竹亭コレクションは、池上喜作が生涯にわたって蒐集した近代文芸資料を主とする201点の総称です。その中には喜作が中心になって進めた松本の民藝運動に関係する作家の作品や師匠にあたる正岡子規に関係した作品が多数含まれています。

さて碓屋さんを紹介します。私の高校時代の同級生です。陸上部で活躍しており、カッコよく女子にかなり人気がありました。お父さんの跡を継ぎ碓屋漆器店を経営しています。松本城の管理に深く関係しており、毎年外壁の漆の管理をしてくれています。

今日はその苦勞について聞けるとおもいます。よろしくお祈りします。

幹事報告

藤田幹事

①次年度中信第一グループガバナー補佐候補者推薦委員会開催のご案内。

日時…8月28日(日)12:30~。場所…仙岳 松本店。当クラブ委員…大久保 元ガバナー補佐。

②米山奨学地区セミナー開催のご案内。

日時…8月27日(土)10:30~12:10。場所…松本大学(松本市新村)。参加依頼…米山奨学担当者(田内国際奉仕委員長)

③ロータリー財団地区セミナー開催のご案内。

日時…8月27日(土)13:00~16:30。場所…松本大学(松本市新村)。参加依頼…会長、R財団担当者(田内国際奉仕委員長)又は幹事、国際奉仕委員。

④8月3日(火)例会終了後、定例理事会開催。

⑤各RC例会変更のお知らせ。

[大町RC] 8月3日(水)移動例会(夜間例会；白馬RCと合同ガバナー公式訪問)、8月17日(水)休会(クラブ指定)、8月24日(水)移動例会(夜間例会) / [松本RC] 8月11日(木)休会(法定休日)、8月18日(木)移動例会(夜間例会；納涼家族パーティー)、8月25日(木)移動例会(会場；丸の内ホール)

配布資料；幹事報告、会報No.3

出席報告

会員総数 21 名 (内出席規定適用免除欠席者 2 名)

本日の欠席者 5 名 出席率 73. 68%

前々回(7/13)修正欠席者 2 名 出席率 88. 89%

ニコニコボックス報告

コメント ◇碓屋さん、よろしくお祈りします。西牧君 ◇百竹亭の日本庭園、素晴らしいですね。緑が目にしみます。藤田君 ◇碓屋様、本日はご苦勞様です。よろしくお祈りします。大久保君 ◇碓屋先生、よろしくお祈りします。西川君 ◇いささかよい風が吹いています。碓屋様のお話たのしみに。上條君 ◇お城の北側は、意外とポケモンがない、ということがわかりました。碓屋さん、よろしくお祈りします。宮澤君 ◇百竹亭さん初めてで楽しみです。丸山君 ◇私の小さい時に友達とよく遊んでいた場所で、とても懐かしいです。井筒君 ◇初めてきました。趣のある場所で、有難く思います。中島君 ◇珍しいところで、とても素敵です。塚本君 ◇夏休みに入り、観光客も多くなってきました。普段はすいているお城もお盆になると90分~120分待ちとされています。天下の松本城をつくづく有難く思います。山崎君 **前回欠席** ◇征矢君

～ プログラム ～

《外来者講演》

講師紹介

西牧会長

碓屋漆器店 二代目店主 碓屋 公章 様

松本市の再生のプロフェッショナル集団の指揮をとっています。国宝松本城の漆の塗替えを年に1度担う。60年前の先代から漆の作業を引き継いでおり、昭和25年から5年かけて行われた大修理に先代が漆職人として参画して依頼、その修理保全につとめてきました。



講演「国宝 松本城」

【カラス城の正体】

松本城が美しいと言われる理由のひとつに、「青空、白と黒のコントラスト、朱のポイント」と色彩美があげられますが、この下見板の黒い部分と月見櫓の朱い部分が漆塗りで、その塗替え作業が私の仕事です。

作業手順は、先ず軒下や壁全体のすす払いと鳩の糞を取り除きます。次に天守閣の上から下までホースで水洗いをします。この段階で白が白であり黒が黒となりますが、黒を更に黒く塗ることによって一層白が白くきわ立ちます。この黒い下見板ですが、水洗いをすると前回の下塗りをした状態にもどるので、毎年上塗りを1回しています。この方法だと手間も費用も僅かで済み、毎年同じ状態が維持できます。これは1966年に当時の文部省が松本城をモデルケースとして始めたことです。まれに下地まで剥げてしまった場所には解体修理時にしたのと同じ下地をします。松煙墨を柿渋に混ぜたものを塗ります。木が柿渋を吸う力で墨粉を木材内部へ引き込むので墨が定着し渋が防腐材の役目もして目止めと下地が出来ます。カラス城といわれるその黒はそもそも下地の「墨」なのです。松本城は解体調査の時、板と板の重なり部分から「漆塗り」が発見されたことから昭和の大修理の祭、同じ材料、同じ塗り方で漆塗りが施され、現在まで続いています。朱塗りの月見櫓はシートですっぽり覆って、傷みの烈しい部分を修復し、錆で下地を施し、下塗り、上塗りをします。この覆いは足場も兼ねますが、目的は高湿度を保ち風を防ぐ漆室です。

【9月が最適】

漆を乾かすには適当な温度と湿度が必要です。お椀など乾かすのに湿度70%位の漆室に入れます。お城の漆塗りは気温や雨に左右され、霜が降りるようになるともう出来ませんし、真夏や真冬もだめです。結局春か秋ということになるのです。特に湿度、雨というと6月がいいように思われがちですが、梅雨前線は気まぐれで全く雨の無い梅雨時もあります。そこへゆくと秋雨前線は規則正しく西からやってくるので、雨の降る日を容易に予測でき、仕事の

段取りがつかめます。9月の雨は雷雨やにわか雨のように吹付けることもなく、軒下でも仕事が出来ます。真夏の日差しに傷めつけられた木肌を秋に回復させてあげるのです。

【何にもたさない何にもひかない】

年々傷みが進んでいくのを見て、これをこう改良したほうがいいのではないかと。好い材料が開発されているので、それを使ったらどうか。もっと簡単な方法を研究したほうが……。と心配する人がいます。しかし文化財の補修というものは「同じ材料、同じ工法」が原則で、常に築城当時の状態を維持し続けようとする頑固な挑戦です。漆に勝る堅固な塗料が有るからといってそれを塗ったとしたら、400年前にそんな化学塗料があったのかという問題に、よく剥げるからといって欄干を布着せという工法に替えたとしたら、当時の殿様がそれだけの財力があつたのかという、歴史をも変えてしまう問題に発展してしまいます。ですから最初の材料、工法をどんなことがあっても守り、綿々と維持していく努力が大切です。今も解体修理時、取替えとなった400年前の桧を補修材として保存して、毎年埋め木用として少しづつ使っています。何か新しいものを足したり、新技術を導入したり、また合理化して手間を省いたりしてはいけません。

【作業】

仕事場は主に屋根の上ですが、その前に厳しいゲートを通さなくてはなりません。各階の格子には屋根に出られように工作をしてあります。この格子の隙間から外にでるのですが、幅25cmしかないのです。はじめの頃は容易でしたが、最近息を止めないと通過できません。これをクリアしないと仕事にならないのです。天守の最上階の外に出て屋根瓦をつたい準備に取り掛かります。東の面と南の面は紫外線が強く痛みが激しいため濃さを加減します。3人の職人が下見板5000枚を2ヵ月かけて丁寧塗りに直します。劣化した月見櫓の床板を剥がす。この朱漆は60年前から塗り重ねられており、父親がやった作業だとわかります。

床板は長い年月で割れやササクレ等の傷みが進み、棘が足に刺さったりして観光客を悩ませます。それを防ぐ為、板の割れ目やササクレを研いた跡に、「コクソ」という漆のパテのようなものを埋めていきます。強力な接着効果があつて割れのある板もそこからは割れが進みません。観光客の歩く床板であることと、かぶれ易い漆を使用する事から、昼間の作業が出来なくて夜間の作業となります。しかも朝までに乾かすため、時間の余裕もありません。親父がやっていた頃は、電気設備が無いので懐中電燈を照らして、1人で床を這いずりながらやっていました。今は各階にコンセントがあるので照明には困りませんが、使う「コクソ」の量が年々増えてきました。

閉会 13:30

【写真：西川】